



職場には適正な要員は いるのかなァ…!?

● 渡辺 信之

国労東日本本部 法対部長



今年（2017年）は1987年の国鉄「分割・民営化」から30年、JR東日本発足30年の記念の年です。つまり「国鉄」最後の日に、まだ生まれていない30歳以下の社員のみなさんが、JR東日本社員5万7580人のうち、1万2150人（2016年4月1日現在）約21%を占めています。

ところで30年前の部門別社員数がどれくらいだったと思いますか？

《1987年の部門別社員数》は、

駅—1万8000人・車掌—6500人
運転士—7800人・車両—1万1200人
設備—1万6300人
の合計5万9800人（1987年＝100として）

で発足しました。

その後、ワンマン運転の拡大や、車両メンテナンス近代化などの「合理化」が実施されました。

《2000年の部門別社員数》は、

駅—1万4140人・車掌—6040人
運転士—7250人・車両—7970人
設備—1万300人
の合計4万5700人（＝76）

に減少していきました。

その後さらに、設備部門のメンテナンス体

制の再構築や契約社員制度の導入ならび普通グリーン車アテンダント化などのさらなる「合理化」が実施されて、

《2010年の部門別社員数》は、

駅—1万2600人・車掌—5520人
運転士—6820人・車両—6340人
設備—6610人
の合計3万7890人（＝63）

にまで減少しています。

加えて駅での窓口無人化を推進する「駅遠隔操作システム」や「グループ会社と一体となった業務体制のさらなる推進」も実施されて、

《2016年の部門別社員数》は、

駅—1万750人・車掌—5200人
運転士—6350人・車両—4840人
設備—6410人
の合計3万3550人（＝56）

と、発足当時の約半分になっています。

数字ばかり並べてごめんなさい。言いたかったのは、これでは仕事の仕組みややり方が変わっても、職場では「深刻な要員不足だ!」と思うはずだということです。もっともっと新規採用者を増やしてくれないと、本当に職場は大変な事態となってしまいますよ～!!

はたして2017年の部門別社員数はどうなるのでしょうか・・・
(2017.4 記)